

# 農ガール タカパン奮闘記！

第3話

## ダーナ 編

むら せ ま り こ  
村瀬 麻里子さん



タカパン達を応援してください。お待たせいたしました。今回の主役は、タカパンの相棒であるダーナ（村瀬麻里子さん）です。タカパンとは、平成27年度本科研修生で同期でした。筆者から見たダーナは、実業団で弓道を通じて心身共に鍛錬していましたので、健全な精神を持ち、礼儀正しく、曲がったことが嫌い。同期の研修生の中では頼れるアネゴのような存在でした。また、研修生達でお米や野菜の販売を行った時も、看板をもって、タイ古式マッサージで集客を図るという、たくましさや印象に残っています。また、米ぬかふりかけを製造して、販売していました。日本の文化的にも、もったいない精神からお米に対する強い愛情のような感じました。



タイ古式マッサージを施術中  
研修時代のダーナ

【なぜ農業をはじめようと思ったのですか？】

◆ 思ったのですか？

ダーナは以下のように話してくれました。「私は前職タイ古式マッサージのセラピストをしていました。このお店の屋号が『ダーナ』でしたので、私の愛称となりました。そんな職業柄、健康に良いことに興味があり、食事療法など色々と試していたのです。人が健康的に暮らすために「食」は大きな柱だと実感し、自身で家庭菜園を始めたことがきっかけです。自分で育てた野菜のおいしさにすっからはまってしまいました」

「ちょうど農家になろうかと悩んだ頃は東日本大震災によって大きな被害があり、日本中の心が揺さぶられた時期だったと思います」

「なんの生産性もない自分自身の暮ら

前号に引き続き、タカパン奮闘記  
（ダーナ編）をお読みください。



もったいない精神から  
生まれた米ぬかふりかけ





しは、結局、原発やダムなど環境破壊を伴うエネルギーに頼るしかなく、少しでも自分で自給する暮らし方へ変えていきたいという想いが農家研修へ駆り立てた気がします」

### 【なぜ自然農法センターの研修を選んだのですか？】

「一言ですと、グーグルで検索しました“です”と無駄のないシンプルなダーナの回答でした。そして続きます。“いくつか候補はありましたが、できるだけ環境負荷が少ない農法であること、稲作を勉強できるということで自然農法センターを選びました”と。

また、研修で良かったことも語ってくれました。「自農センターでは研究者の方が指導員なので、研修生は農作業に追われるのではなく、時間にも余裕がありました。ですから、自主勉強も十分できたことが良かったです。さらに、色々と浮かぶ疑問も裏付けのあるデータや経験からすぐ回答を得られたことが良かったと思っています」

ダーナの研修修了時のレ

ポートは“田の恵みを享受する米づくり”という題で、お米の生産だけではなく、畦を使った作物栽培や、生き物の住処としての畦の利用、景観の維持といったことを考えていました。そのレポートの中で、水稻栽培では厄介な雑草を食べてしまおうという発想は、もったいない精神が現れており、日本人の主食である米を生産する日本人としての思いを感じることができた内容でした。

### 【就農して苦労したと

思う事は何ですか？】

「数々の思い出したくもない失敗が頭をよぎりますね。小規模農家ですと栽培だけでは



## 本科研修時代の タカパン&ダーナ



“田の恵みを享受する米づくり”  
と題して発表するダーナ



ハザかけを終えて、  
充実感を味わうひととき





後輩の研修生との休憩風景



ダーナ & タカパン  
お米づくり



天日干し米であることもウリの一つ

オーガニックファーム チュトワ  
〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出 4571-1  
HP <http://chutowa.wixsite.com/chutowa>  
FB <https://ja-jp.facebook.com/chutowa/>  
Mail [chutowa210@gmail.com](mailto:chutowa210@gmail.com)

なく、その後のパッケージ作り、営業、販売、経理と一連を全て自分たちでこなすことが大変だと感じています」

「それでもお客様から“おいしかった”と感想を直接聞けたり、自分たちの好きな店に好きな形で販売できたりするのは面白いです。そう考えると苦労は喜びややりがいも含んでいる貴重な時間かとも思っています」

大変さを感じますが、前向きな発言です。ね。“自分たち”と発言していますが、タカパンと一緒にいるので、きっとそうなんだろうなあと感じました。

前号でタカパンは、“お米や野菜を栽培しているので食べることに困らなくても、販売が厳しければ現金収入がないので、バイトをしているダーナが頼りになる”と言っていました。そこで、ダーナがどんなバイトをしたのか聞いてみました。

「近所の福祉施設で飼育されている平飼いのニワトリの卵を甲府へ配達する仕事でした。ちゃっかり、チュトワの野菜も販売させてもらいましたけど(笑)」

「現在は、大工仕事を覚えるために卵の配達の仕事は辞め、単発のアルバイトのみしています。時々ですが、タイマツサージの仕事や七草粥の七草出荷のお手伝いもしました」

知らない土地に就農して、色々な仕事が見つかるのは、周りの人たちに助けられ





「頼られているんだろうと思いました。また、頼まれると断れないダーナの人柄や、自然を愛するタカパンの人柄もあってのことですね。」

就農して2年目が終わろうとしています。ですが、やはり心配事はあるようです。以下の様に話してくれました。

「販売先が増えるまでは現金収入を外で稼がなくてはならない状況が続きます。貯蓄をもっとしておけばよかったと思うも、後悔先に立たずですね」

「新規就農者の助成金も申請してありがたいを受けています。しかし、特に初年度はハウスや機械、資材など支出が多く当然赤字。2年目もまだまだ販売先が少なくやはり赤字。新規就農は販売先の開拓が大変です」

「それから大仕事を覚えようとしたのも、人に頼んではお金がかかるので、できるだけ自分たちで道具、小屋など作るためです。自分たちで作れば直すことができますし、これからの楽しみにもなっています」

これが有機栽培で新規就農した人たちの現実だと思えます。筆者の就農した友人も「野菜作りは何とかなるけど、販売が大変なんだよ」と言っていました。別の友人は「助成金や給付金があるから赤字にならないで済んだよ」と言っています。

社会経済という自然と乖離したところ



赤米・黒米・香米を混ぜ、「3種の古代米」というパッケージで販売



を脱し、人間らしい生活を期待して就農する人もいますが、お金を稼ぐという事は社会経済と決別することはできず、その狭間で、もどかしい思いをしている新規就農者が大勢いるんだろうなあと筆者は強く感じました。

## 『ダーナから見た タカパンってどんな人?』

「直感派の私(ダーナ)に対してタカパンは理論派。米しか頭にならない私と様々な野菜を畑でくるくる回すタカパン。経理や助成金関係など私の苦手分野を担当してくれています。私にはない部分をたくさん持っていてお互いに補い合う良き相棒です」このように話してくれました。

信頼関係ができていてお互いが補い合える関係なんてとても素敵ですね。

ダーナが担当している水稲では、全国水稲栽培農家の65歳以上の割合が74%(平成22年農水省調査)、39歳以下はわずか1%となっています。自然農法センター農業試験場のある長野県はリンゴの産地ですが、後継者がなく廃業、もしくは大規模農家や法人に委託する形で廃業を免れているような状態です。

このような農業を継続するには難しい情勢の中で、新規に就農して奮闘しているダーナとタカパンを支援していきたいと考えています。皆様もどうぞよろしく願います。(研修課 千嶋 英明)